

窓辺

韓国伝統舞踊のよつに 舞うホソオチヨウ

あんどろ
安藤 隆敏 たかとし

今から12年前、天竜川の河原で見たことのない優雅な飛び方のチヨウに遭遇しました。それは韓国や中国に生息していて、もともと日本にはいないはずの「ホソオチヨウ」でした。

早速調べてみると、人間が朝鮮半島から持ち込んだとされ、1978年に東京で初めて確認されました。その後、京都府や山梨、栃木、宮城の各県などでも目撃されています。80年ごろには、先輩の教え子の一人

が天竜川の河原で採集したチヨウの標本箱の中に、このチヨウがいたことも分かりました。

これらの事実から①人間が持ち込んだ②風に乗って日本に入ってきた③日本列島が大陸と陸続きの頃から細々と生息していた④の三つの仮説を立ててみました。しかし、産地による紋様の微妙な違いや吸蜜の様子、鱗粉りんぷんの特徴などの点で、どれも反論点が浮かび上がってきました。

そこで、原産地の一つ、韓国を調査することになりました。韓国昆虫学会の会長のパク・ギユテク江原大教授を訪ね、意見を伺いました。現地では、パク教授の知り合いの昆虫写真家の歓待も受け、フィールド調査もしました。この調査結果から先に挙げた三つの仮説についての公開講座「ホソオチヨウを見る会」を天竜川の河原で実施しました。

しかし、この数年後、体長の小さな成虫ばかりが目立つようになり、そして、つい姿を見せなくなっていました。そこで、①の説が正しかったと結論づけました。(浜松科学館館長)